

アフターケア・インケアに関するアンケート調査

令和6年度（2024年度）横浜市社会的養護自立支援実態把握事業 報告書概要版

児童養護施設や里親家庭等で過去生活をしてきた方・現在生活している方に、自立支援のニーズを調査しました。
この概要版では、社会的養護経験のある方たちが、いまどのような生活をおくり、どのような気持ちでいるのかを紹介します。

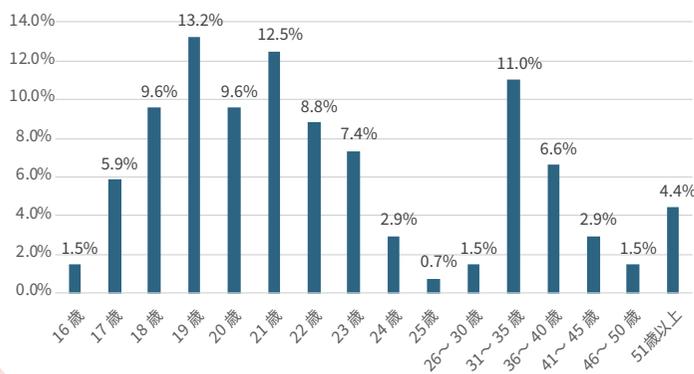
退所者調査 Aftercare

回答者 136 名

児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、母子生活支援施設、里親家庭、ファミリーホーム、自立援助ホームを過去5年（平成31年4月1日～令和6年3月31日）に退所した、15歳以上の義務教育を終了した者

※調査では、母子生活支援施設の保護者にもアンケートを実施しているため、年齢層に保護者世代の年齢が加わっている。保護者年代は、グラフ上では5歳ごとにまとめて表記した。

回答者年齢分布



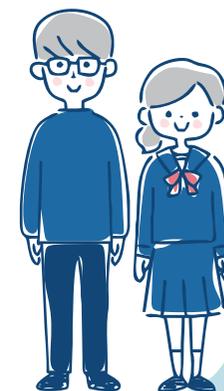
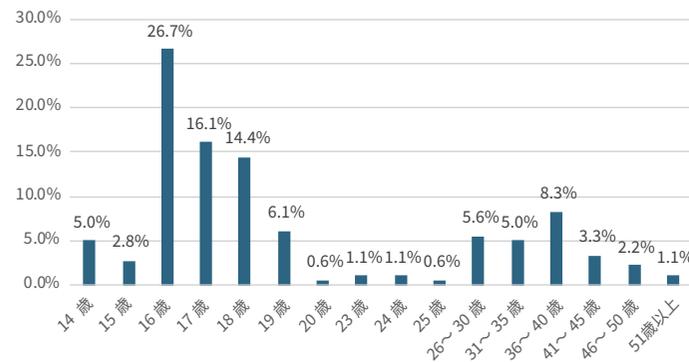
入所者調査 Incare

回答者 180 名

児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、母子生活支援施設、里親家庭、ファミリーホーム、自立援助ホームに入所中の15歳以上の義務教育を終了した者

※調査では、母子生活支援施設の保護者にもアンケートを実施しているため、年齢層に保護者世代の年齢が加わっている。保護者年代は、グラフ上では5歳ごとにまとめて表記した。

回答者年齢分布



Aftercare 退所者調査

施設で過ごした期間

最後に生活していた施設で過ごした期間 **TOP 5**

1年	: 16.2%
2年	: 16.2%
1年未満	: 10.3%
3年	: 10.3%
4年	: 8.1%



施設で過ごした期間は、「1年・2年」が最も多く、5年未満が61.1%となる。

仕事

現在の就労状況

現在の働き方 **TOP 3**

正社員	: 44.0%	} 47.6%
パート・アルバイト	: 39.3%	
契約社員・派遣社員	: 8.3%	

※重複回答あり



働き方は、「正社員」が最も多く「パートアルバイト」が続く。非正規の割合は正社員を超える。

進路

退所直後の進路

就職・就労 **49.3%** 進学・通学 **33.1%**

未定: 11.8% その他: 5.9%



退所後の進路は、「就職・就労」のほうが16.2ポイント多い。

住まい

現在の住宅状況

民間賃貸住宅	: 56.6%
公的賃貸住宅	: 11.0%
親の家	: 5.9%
福祉施設・自立支援ホーム	: 5.9%
会社や学校の寮	: 5.9%



現在の住まいは、「民間賃貸住宅」が半数を超え、次いで「公的賃貸住宅」が続く。

家計

収入と支出のバランス

収入と支出は同じくらい	: 40.4%
支出のほうが多い	: 24.3%
収入のほうが多い	: 17.6%
わからない	: 17.6%



「収支のバランスが変わらない」が最も多い一方で、「収入のほうが多い」は最も低い17.6%となった。

貯金の有無

貯金がない	: 44.9%
貯金がある	: 44.1%
わからない	: 11.0%



「貯金の有無」は、同程度である。
11.0%は「貯金の有無」が把握できていない状況が見えた。

ローンや借金

ローンや借金の有無

ローンや借金が無い	: 69.1%
ローンや借金がある	: 21.3%
わからない	: 9.6%



69.1%が「ローンや借金が無い」と回答するも
21.3%は「ある」と回答している。

ローンや借金の理由 TOP 3

一時的な出費があつて借金をした	: 37.9%
日常的な生活費が足りずに借金をした	: 34.5%
住宅ローンを借りた	: 13.8%

「一時的な出費による借金」が37.9%で最も多いものの、
「日常的に生活費が足りていない」が34.5%で続く。
厳しい経済状況が見えてくる。
「住宅ローンを借りた」は、母子生活支援施設の保護者による回答と推測される。

Aftercare 退所者調査

からだの健康状態

身体的な健康状態が悪い

通院している : 26.5%
通院していないが体調が悪い : 8.8%

身体的な不調は、合計 35.3% となった。



こころの健康状態

精神的な健康状態が悪い

通院している : 30.9%
入院中である : 0.7%
通院していないが心の状態が悪い : 8.8%

精神的な不調は、合計 40.4% となった。



通院状況

過去 1 年間の通院

通院できなかった : **22.1%**

施設区分別のTOP理由

施設

お金がかかるから
時間がないから
ともに **38.5%**

自立支援ホーム

お金がかかるから
71.4%

母子生活支援施設

時間がないから
66.7%

自立支援ホームでは、経済的な理由による通院の断念が7割を超えている。

施設でのサポート

入所中に役に立ったサポート **TOP 5**

困ったときの相談方法・相談先の案内 : 34.6%
退所後の住まい探し・同行 : 31.6%
生活費のシミュレーション : 25.7%
就職活動のサポート : 21.3%
家事の練習・学習 : 21.3%
退所後の不安の相談 : 21.3%

※重複回答あり

「困ったときの相談方法」が最も多く、次いで「退所後の住まい探し・同行」「生活費のシミュレーション」が続く。「困りごとへの対処・退所後の住まい・生活費管理」が役に立ったと回答している。



施設区分別の最も役に立ったサポート

施設

退所後の住まい
探し・同行

46.6%

自立支援ホーム

困りごとや分からない
ことの相談先や
相談方法の案内

33.3%

ファミリーホーム+里親家庭

生活費の
シミュレーション

75.0%

役に立ったサポートは、施設種別ごとに異なる。「ファミリーホーム+里親家庭」では、75.0%が「生活費のシミュレーション」となったが、「施設」では「退所後の住まい探し・同行」、「自立支援ホーム」では「困りごとの相談」となった。

施設等とのつながり

困ったときの相談相手 TOP 5

施設以外の友	: 33.8%
施設等で過ごした友人	: 33.1%
施設の職員	: 29.4%
親	: 22.1%
交際中の人や配偶者	: 21.3%

※重複回答あり



上位は「友人」と「施設の職員」。「親」や「交際中の人や配偶者」も2割程度となる。

退所後、施設等からの連絡頻度

週1回以上	: 3.7%
月に1回以上	: 21.3%
2~3か月に1回以上	: 28.7%
半年に1回以上	: 14.0%
1年に1回程度	: 21.3%
1年に1回もない	: 11.0%



「2~3か月に1回以上」の連絡が最も多く28.7%。
次いで「月に1回以上」「1年に1回程度」の21.3%が続く。「週に1回以上」は3.7%となり、
退所後の連絡頻度は少ない状況が見える。

不安と支援

退所前に不安だったこと TOP 5

生活費や学費のこと	: 50.0%
将来のこと	: 33.8%
仕事のこと	: 28.7%
住まいのこと	: 27.2%
人間関係のこと	: 25.0%

※重複回答あり



「お金」「仕事」「住まい」に加えて「将来」や
「人間関係」に関して不安を持っていた状況が見えてくる。

退所後に役に立ったと感じた支援 TOP 5

日常的な雑談・相談	: 31.6%
イベントや交流会	: 26.5%
不安やトラブルなどの悩み相談	: 25.0%
食事の提供	: 14.0%
誕生日や成人式などのお祝い	: 13.2%

※重複回答あり

「日常的な雑談・相談」が最も多く、「イベントや交流会」が続く。
5位にも「誕生日や成人式などのお祝い」があり、
日頃のコミュニケーションの重要性が伝わってくる結果となった。

進路

今後の進路

就職 **46.1%** 進学 **21.7%**

未定 22.8% その他 9.4%



卒業後は「就職」が46.1%で、「進学」より24.4ポイント高い結果となった。

からだの健康状態

身体的な健康状態が悪い

通院している : 27.2%
通院していないが体調が悪い : 2.8%

身体的な不調は、合計30.0%となった。



こころの健康状態

精神的な健康状態が悪い

通院している : 40.0%
通院していないが心の状態が悪い : 5.0%

精神的な不調は、合計45.0%となった。



自立準備

将来の働くイメージ

できている・まあできている : 46.7%
できていない・あまりできていない : 26.7%
どちらとも言えない : 26.7%

「将来の働くイメージ」ができているのは46.7%。
できていないの26.7%と20ポイントの差となった。



自分で生活・生計を立てていくイメージ

できている・まあできている : 44.5%
できていない・あまりできていない : 34.4%
どちらとも言えない : 21.1%

「自分で生活・生計を立てていくイメージ」は、44.5%が「できている」と回答。できていないの34.4%と10.1ポイントの差となった。「将来の働くイメージ」と同様にイメージができている状況が見えてくる。

施設等とのかわり

意思表示

尊重されている	}	72.8%
まあ尊重されている		
尊重されていない	}	7.8%
あまり尊重されていない		
どちらとも言えない：19.4%		

施設では72.8%が、自分を尊重していると感じており、尊重されていないと感じているのは7.8%だった。



職員との信頼関係

十分に信頼できる	}	71.6%
まあ信頼できる		
あまり信頼できない	}	6.6%
信頼できない		
どちらとも言えない：21.7%		

施設職員や里親、児相の担当者との信頼関係は、71.6%が「信頼できる」と感じており、「信頼できない」と感じているのは6.6%だった。

不安と相談

不安なこと TOP5



生活費や学費のこと	： 58.3%
仕事のこと	： 51.7%
住まいのこと	： 50.0%
将来のこと	： 41.1%
人間関係のこと	： 39.4%

※重複回答あり

お金や「仕事」に関する不安が最も多いが、「住まい」や「人間関係」も上位となる。幅広い分野で、不安要素が多いことが伝わる。



困ったときの相談相手 TOP5

施設職員・里親	： 51.7%
施設以外の友人	： 43.9%
施設の中での友人	： 29.4%
親	： 26.7%
児童相談所の人	： 23.9%

※重複回答あり

「施設職員・里親」は半数を超え最も多く、「施設以外の友人」も半数近くの2位となる。「親」は4位の26.7%となった。「友人」へ相談している様子もうかがえるが「施設職員・里親」へ相談するケースが高いことが伝わる。

まとめ

本調査の結果を受けて、横浜市社会的養護自立支援協議会にて以下のようなまとめを行いました。

- ①本調査で得られた結果をもとに、具体的な自立支援の手法等を行政や施設等で議論するなどして、共通の自立支援の仕組みづくりを行うこと
- ②定期的に自立支援の現状把握を行い、検証機能を継続していくこと
- ③調査に回答しなかった（できなかった）者に焦点を当てて求められる支援像を検討すること



施設や里親家庭等を巣立つ時の不安、これまでに受けたサポートの感想など、ここで紹介した以外にもたくさんの質問に回答いただきました。また、施設等へも自立支援調査を行いました、「退所後トラブルを抱え連絡がとれなくなったが、数年後に生活が落ち着き施設に顔を見せに来てくれるようになった」という回答もありました。ご興味・ご関心がある方は、ホームページに掲載している報告書（本編）をご覧ください。
※ページ数のある資料のため、パソコンでの閲覧をおすすめしますが、QRコードも記載します。
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/yogo/jittaihaaku.html>

報告書（本編）



令和6年度（2024年度）横浜市社会的養護自立支援実態把握事業の概要

【事業主体】

横浜市

【事業目的】

横浜市管轄の社会的養護経験者の支援ニーズ等を把握するための実態調査を行い、社会的養護経験者の課題や困難に対して、効果的な自立支援が提供されるための環境整備を行い、今後の自立支援につなげる。

【調査対象の施設等】

児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、母子生活支援施設、里親、ファミリーホーム、自立援助ホーム

【実施した調査】

- ①退所者調査：調査対象施設を措置解除された本人記入調査
- ②入所者調査：調査対象施設に措置（委託）中の本人記入調査
- ③施設等調査：①および②の調査対象者を措置受託経験した、措置受託施設等